

令和7年度 第2回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

【日 時】 令和7年11月20日（木）
10時00分～12時00分

【場 所】 新潟市歴史博物館本館2階セミナー室

【出席委員】 池田 哲夫 会長 （新潟大学人文学部名誉教授）
渋川 綾子 副会長 （にいがた湊あねさま倶楽部）
今井 美穂 委員 （新潟日報社）
殖栗 大輝 委員 （公募委員）
加藤 芳和 委員 （日本旅行業協会新潟県支部）
久保 有朋 委員 （古町花街の会）
坂井 隆一 委員 （新潟市立牡丹山小学校長）
中村 美香 委員 （(有)ミカユニバーサルデザインオフィス）
比金 克久 委員 （新潟市小中学校PTA連合会）
松井 大輔 委員 （新潟大学工学部准教授）
村山 賢誌 委員 （公募委員）

【オブザーバー】 野澤 真里子 新潟市歴史文化課 課長

【事務局】 坂井 秀弥 新潟市歴史博物館 館長
小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長
吉田 英津子 新潟市歴史博物館 総務担当次長
大泉 敏一 旧小澤家住宅 館長
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長
森 行人 新潟市歴史博物館 学芸課長
高橋 久美 旧小澤家住宅 職員
室橋 亜衣 新潟市歴史博物館 職員

【 次 第 】

1. 開 会

2. 館長挨拶 詳細別紙

3. 議事

(1) 令和7年度事業中間報告

① 9～10月の博物館本館及び旧税関庁舎臨時休館について 詳細別紙

② 歴史博物館

資料1・2及びスライドを用いて説明。 補足別紙

≪意見・質疑応答1≫ 詳細別紙

③ 旧小澤家住宅

資料3・4及びスライドを用いて説明。 補足別紙

≪意見・質疑応答2≫ 詳細別紙

(2) 歴史博物館バックヤードツアー

事務局より収蔵庫・資料整理の現場・情報ライブラリーなどを案内。

(3) その他 詳細別紙

4. 閉会

尚、会議後に開催中の企画展「第22回むかしのくらし展」を担当学芸員より案内した。

≪館長挨拶≫

(坂井 館長)

本日はお忙しいなかお集まりいただき誠にありがとうございます。当館は新潟市の歴史文化を活かして研究し広く活用する役目があるが、運営協議会の開催はその役目を果たすうえで非常に重要であると認識している。8月1日より新たな任期となり、今年度より館の評価していただくこととなった。それにあたり理解を深めていただきたく、本日はバックヤードツアーと題して館内の視察を計画した。当館が日常的にどのような活動をしているかご覧いただきたい。博物館の来館者は展示や講座等の行事に来ていただくことが主になるが、それを支える日常の仕事をご理解いただくのが重要だと考えた。

前回から3カ月半しか経っていないが、この間に当館で2つの大きな出来事があった。ひとつは9月7日に愛子内親王にご視察いただいたこと。多くのマスコミにも報じられた。十数年前には今の天皇陛下にもご視察いただいたが、新潟を訪ねた時の視察先に入れていただき誇らしく思う。それにふさわしい博物館として広く認められていると感じた。当日は小林副館長が展示の説明をしたが、愛子さまも亀田郷をご存じだったそうで、私も嬉しく思った。

この件もあり多くの方に来ていただけたと思った矢先の9月10日夜に落雷があり、9月12日よりやむなく1ヶ月近く休館した。ちょうど「むかしのくらし展」が開幕直前でもあり当館としては痛手だったが、現在は再開した。未だに旧税関と、別の工事により旧第四銀行は入館できず不十分ではあるが、早く全面復旧したいと思っている。

近況と開催の趣旨をお伝えし挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

≪9～10月の博物館本館及び旧税関庁舎臨時休館について≫

(吉田 総務担当次長)

9月10日(水)激しい雷雨があり、旧新潟税関庁舎に落雷した。建物本体には被害がなかったが、旧新潟税関庁舎と歴史博物館本館の安全設備が故障したほか、敷地内の電気系統に漏電の被害があった。翌日11日(木)に通常通り開館しながら電気設備点検を行っていたが、安全設備が機能せず来館者の安全確保が困難であると判断し、新潟市歴史文化課と協議のうえ、その翌日12日(金)より両施設とも臨時休館とした。

その後、博物館本館の修理が完了したため10月11日(土)から開館したが、

1カ月程度の臨時休館となり来館予定者にはご迷惑をお掛けした。予約が入っていた学校や団体には個別に連絡をし、アウトリーチや代替案の提案をした。また企画展「むかしのくらし展」が予定通り開幕できなかつたため、一人でも多くの方に展示をご覧いただけるよう、12月10日（水）から27日（土）まで規模を縮小して一部資料を展示する予定である。

なお旧税関庁舎は修理に時間がかかり現在も休館しており、敷地及び外観のみ見学可能としている。

≪博物館 令和7年度事業中間報告≫ 補足

（小林 副館長）

当館の事業は指定管理事業である文化事業と文化施設管理事業、また自主事業（自主財源）に分かれているが、本日は文化事業と自主事業について報告する。

企画展「にいがた てしごと・ものづくり展」では、新潟仏壇や白根絞りなど地元の工芸を紹介し、商品販売も行った。関連して4/29 蒔絵のネームプレートづくり、5/4 ろうそくの絵付け体験、5/25 金具打ち体験、6/1 白根絞り体験を企画した。「新潟市と戊辰戦争展」では久しぶりに有料企画展で来場者数5,000人を上回り、市民の関心の高さが窺えた。市民からの戊辰戦争関係の資料の寄贈品を紹介する講演会を7/26 企画した。8/11 記念講演会では応募が多数あったため、急遽回を増やして約160名を受け入れた。「むかしのくらし展」は小学校の授業单元にあわせて現在開催中。

教育普及事業として、8/20,21に「先生のためのみなとぴあオープンデー」を開催し19名来場した。未就学児向けの「はじめてみなとぴあ」は将来的な博物館の利用者を育てる試みで、今年は4つのこども園・幼稚園と連携しているほか、一般向けにも全4回で開催中。

広域合併20周年企画は市の特別な予算で実施している。

自主事業「古文書上達講座」では、集めた受講料も自主事業の財源となっている。11/24 特別講演会は会場を万代市民会館とし定員は250名と余裕をもたせた。地域学「古町学」は「大新潟映画展覧会」の開催を視野に入れ、映画関連の企画をした。

令和7年度目標観覧者数は93,000人だが、10月末時点で54,095人となっている。臨時休館の時期はもう少し観覧者数が見込めたはずであった。

≪意見・質疑応答1≫

(久保 委員)

「むかしのくらし展」チラシは昨年まで落ち着いた雰囲気だが、それに比べて今回は近未来的になったと思う。それにより客層が変わったか。

(小林 副館長)

まだアンケートをまとめていないため把握できていない。

(森 学芸課長)

体感として「むかしのくらし展」に限らず若者・外国人が増えていると思う。チラシのデザインが影響しているかは不明である。

(久保 委員)

上の世代が多いと先細ってしまう面があると思うので、若者の関心が増えるといい。

高校生ボランティアの卒業後、正規のボランティアやファンクラブ加入への定着はどの程度あるか。

(小林 副館長)

卒業後の継続は今のところ見られない。それは大学生のボランティアも同様。

(森 学芸課長)

高校生ボランティアたちは歴史に特別興味があるわけではないとのことであったが、歴史をリソースに活動してもらっており、気軽に集まる場を提供している実感がある。また、当館で博物館実習を受講した人が採用試験に応募する動きはある。引き続き業界に関わるきっかけは提供できていると思う。

(久保 委員)

ファンクラブ会員数が減っているが、高校生・大学生が繋がるといいと思った。現状どのような人が会員か。ボランティアとも重複しているか。

(小林 副館長)

ボランティアと若干重複しているが、やはり歴史に興味がある人が多い。館長バスツアーが目当ての人もある。会期が4月始まりでなく、また会費の支払いが郵便局か来館のみであることが手間でもあり、それらが会員減少の原因かもしれない。

(久保 委員)

会員には若者が少ないと思われるが、会費も安いので若者に向いている。ボランティアに関心がある学生もいると思うので、大学向けにアピールする方向性もある。

(村山 委員)

課が違うかもしれないが市でもまち歩きイベントが企画され、また市民ボランティアの活動もある。全てをみなとぴあに関連付けるのは難しいかもしれないが、ボランティアや市、旧小澤家住宅とも協力できるのではないか。

他の施設ではファンクラブ会員になると入館料無料になるところもある。オンライン決済を可能にしたり、特典を再検討したりしたほうがよい。

≪旧小澤家住宅 令和7年度事業中間報告≫ 補足

(大泉 旧小澤家住宅館長)

「新潟仏壇工芸」展では生け花の池坊の門下生が(仏壇製作技法を用いた)花台を用いて花を活けるコラボレーションを行い、外国人来館者にも好評だった。

4/20 講演会は聴講者が28名と少なく感じるかもしれないが、当館の規模では目一杯であり、やむを得ず参加をお断りした方もいる。古文書講座も聴講者は22名だが、これも会場を目一杯使っている。

6/15 夏至祭では、来館者は内部の見学だけでなく飲食物も楽しんでいただいた。見学せず出店だけ楽しめるお客様もいたが、これをきっかけに当館の良さを知っていただきたい。昨年に引き続き4/26に立川志の彦落語会を開催し、多数来場した。11/3「湊下町展」町灯篇は無料観覧日と重なったが、悪天候のため苦戦した。しかし周辺の方からご協力いただいたこともあり、247名の来場者数となった。

今年度は夏の暑さが厳しく来館者数が目減りしたが、9月・10月の企画では

来館者数が増加した。当館はインバウンド旅行客も来館するので、外国人からも来ていただけるよう、受付での案内も努力している。

《意見・質疑応答 2》

(中村 委員)

私はまち歩きで旧小澤家住宅もガイドするが、その際は庭をよく紹介している。庭園講習会に応募者が無く中止になったことは残念である。広報の仕方や、酷暑などの天候も考慮し、やり方を考えて庭園を紹介して欲しい。燕喜館や旧齋藤家別邸と連携した庭園講習会があると面白いのではないか。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

当館はにいがた庭園街道ネットワークに加入しており割引制度もあるが、効果が薄かったかもしれない。高齢化も進んでおり、庭の手入れをする人がそもそも少なくなっているが PR していきたい。なお今年は冬囲いの雪吊り設置を早め、当館の PR ではないが造園業者が新潟日報からの取材を受けた。

(村山 委員)

私も「新潟仏壇工芸」展に訪れたが、伝統工芸は発表の場が少ないので、この取り組みは非常に良いと思う。作品の出展が目当ての来館者もいたようだ。伝統文化を博物館等が伝えていくことは非常に良いと思うので、今後も続けて欲しい。

また明かりも人気がある。夜の企画は大変かもしれないが、人が集められると思うので頑張りたい。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

伝統工芸は担い手が限られているので年ごとに変化をつけるのは難しいが、頑張りたい。漆も新潟では 1 件しかないが、全国を回るなかで当館にも出展していただいた。明かりについては気候を味方にしてやっていきたい。

(今井 委員)

インバウンド旅行客への情報発信はどのようにしているか。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

X やその他メディアのほか、来館時の親切なコミュニケーションやサービスで対応することで（口コミによる）PR を期待している。ただし来館した外国人がインバウンドによるものか地元在住の人かは分からない。クルーズ船が来航する日ということであれば予想がつくが。

(松井 委員)

簗戸入れ替えでは本学の学生がお世話になっている。現代では和室がない家で育ち、和室がそもそもどうなっているか知らない学生も多いため、今後も継続できるとありがたい。学芸員に丁寧に教えていただき、学生にとって非常に勉強になっている。簗戸入れ替えは年 2 回の機会だが、庭園だけでなく建物本体や和室の講習もやるとよいと思う。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

現代では障子張りができる人がいなくなっていると聞く。もし興味がある学生がいるようであれば、障子や襖などの手入れも含め、検討したい。

(久保 委員)

資料 3 内「5 収蔵資料の保存管理事業」の成果・課題等について詳しく教えて欲しい。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

当館の廊下は貴重な檜の一枚板が使われているが、市内で取壊し予定の旧家から同様の檜材を譲り受けることができた。燻蒸して保存しており、将来的に傷んだときに活用したいと思っている。

(久保 委員)

近隣民家の部材の継承という意味でも面白いと思う。

≪その他≫

(野澤 市歴史文化課長)

みなとぴあにおいては、企画展「新潟市と戊辰戦争」展で来館者数が 5,000 人

を超え、また市重点事業「水がつなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業」でもご協力いただきありがとうございます。旧小澤家住宅では地域の方々と多様な企画を工夫していただき、感謝申し上げます。

9/13 に開催予定だった「むかしのくらし展」では毎年多くの来館者が見込まれるなか、会期直前の9/10の落雷により設備の故障が生じ、1ヶ月近く休館となってしまいご迷惑をお掛けしたことにお詫びを申し上げます。その間も予約のキャンセルやアウトリーチなど工夫して対応していただき、また職員には館内の見守りや点検にご尽力いただき感謝申し上げます。今後も運営協議会の委員の皆さまのご意見を踏まえ、地域の多様な主体の方々と連携・協力し、新潟市の歴史文化の魅力を市内外に発信し伝えていただきますようご協力をお願いします。

委員の皆さまには今後も引き続きご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

(渋川 委員)

バックヤードを見て、改めてすごい事業をしていると分かった。毎日がイベントの様だとのことだったが、それに加えてバックヤードでの仕込みや発表のための努力をされているということがよく分かった。頑張っていて欲しい。

以上